

揖斐川町学校教育の在り方審議会
養基保育園保護者との意見交換会（議事録概要）

1 日 時 令和8年5月19日（火） <開会>10時15分 <閉会>11時00分

2 場 所 養基保育園 遊戯室

3 出席者

審議会委員 徳永 恵理奈、中島 勝義

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

A L T Cedric Osborn-Brown Alexander

保護者・家族 12人

保 育 士 1人

4 次 第

(1) あいさつ

- ・ 教育長より、開会の挨拶と「揖斐川町における学校教育の現状と課題」についての説明を行う。

(2) 意見交流

参加者：生きていくうえでは自分で選択する力が必要になるので、子どもには自己選択や自己決定ができるようになってほしいと願っている。そのために、言われたことをただするのではなく、自分から発展的に学ぶ機会や他者と一緒に学び合える環境があるとよい。

教育長：今はクラスの人数が少なくなってきており、保護者の皆様の時代と比べると仲間と学ぶ機会が少なくなっている可能性はある。今の揖斐川町の小学校の1クラスあたり平均児童数は17人で、養基小学校はもう少し多くの児童がいるものの単学級になっているため、学び合うという意味では少し寂しい人数である。おっしゃった自主的な学習や仲間と学習する環境について、委員から小学校の様子をお聞きしたい。

委員：自己選択や自己決定という点では、例えば、算数であれば自分の力で学ぶコースと先生とじっくり学ぶコースを分けるなど、自分で課題や学び方を選択する機会を設けている。そうした学び方の工夫はどの学校でも行っており、学校の規模とは関係なくそれぞれの児童生徒に応じてやらなければいけないことだと考えている。これからは多様な学びの場を保障していくことが求められるため、おっしゃることは今すぐにでも力を入れていかなければならないことであり、個別に応じることと集団で育てることのどちらも大事だと考えて取り組んでいる。

教育長：これまでに幼稚園の保護者の皆様と交流してきた意見について、委員から紹介していただきたい。

委員：揖斐川町には町立幼稚園が5園あり、それぞれ特徴があるものの、どの園も40年ほど前に比べて3分の1ほどの幼児の人数となっている。各園で意見交流をする中では、2クラス以上でクラス替えがあったほうがよいという意見や、少ない人数では限られた仲間の中での行動になってしまうため、たくさんの人数の中で育ててほしいという意見が多くあった。

- 教育長：委員から、できる限り多くの仲間の中で切磋琢磨し、社会性が育つような教育の在り方がよいという意見が多かったという紹介があったが、参加者の皆さんはいかがか。
- 参加者：私も小規模な学校で育ったが、やはり小中学校を同じメンバーで過ごしたうえで高校に進学した際に、他の生徒は知っている人が同じ学校にいる中で私は知らない人ばかりという状態だったため、もっとたくさん友達がいたらよかったと思っていた。同じように子どもたちが感じるのではないかという心配があり、クラスの中に知り合いがないということ避けるためにも、小中学校の頃から人数が多いとよいだろうと感じている。
- 参加者：少し話は変わるが、デジタル化や生成AIが普及し、スマートフォンやタブレット、パソコンを使えばどこでも情報を取得できる社会の中で、子どもたちには五感を使って様々な経験をしてほしい。地方ではなかなか都市に行く機会や多くの人と関わる機会が少なくなるため、保育園や小学校の行事でも様々なところに行き、実際に五感で感じながら様々な経験をしてほしいと考えている。
- 教育長：そうした活動を学校では体験活動と呼んでおり、自然体験はもちろん、街中へ出て探求して調べたり様々な人と出会ったりなど様々な体験がある。小学校で最近行われた体験活動について、委員からお聞きしたい。
- 委員：例えば、大和小学校では、縦割りの異年齢集団でウォークラリーを行っている。幼稚園等の幼児教育で大切にされている教育方法を私たちも引き継ぎながら、直接体験することを通じて子どもたちが成長し、様々なことを身に付けていくということをもとどの学校でも大事にしていると思っている。
- 参加者：私もクラス替えがあるとよいと考える。少人数のクラスで一人一人の子と仲良くなれる環境も大事だと思うが、小学校高学年になると人間関係の好みやトラブルも生まれる。また、仲のよい友達とケンカした際などに、学校の規模が小さいと他の子と仲良くするといったことができず、学校に行きたくなくなってしまうということもあり得る。小中学校で様々な個性のある子と関わる力を身に付けておかなければ、社会に出た時にも他者との関わりという点で困ってしまうのではないか。現在もトラブルが起きると遊ぶ友達がいなくなり外出しなくなるという時があるため、学校が統合してクラス替えができる規模になると、そういった際の選択肢が増えるのではないかと考えている。
- 教育長：養基小学校には、小学校を卒業すると揖斐川中学校と池田中学校に分かれるという特有の状況があり、どちらの中学校も複数のクラスがあるため、中学校で人間関係についての力を身に付けることはできるが、それを小学校の頃からできるようにしてほしいということか。
- 参加者：そのとおりで、小学校でもある程度高学年になると次第に同性同士で遊ぶようになってきたり、好き嫌いが出てきたりするため、小学校のうちからクラス替えができ、様々な子と関わるができる環境があったほうがよいのではないかと考える。
- 参加者：私の子どもも揖斐川中学校の1年生になったが、保育園から小学校まで変わらず同じメンバーで成長してきた中で、中学校入学の時に半分に分かれ、さらにクラスも複数になったため、クラスの中に同じ小学校出身の同性の友達が数人しかいないという環境になった。もともと交友関係を広げることが苦手なタイプでもあるため、はっきりと言うことはないものの恐らく思っていることはあるのだろうと感じている。やはり小さい頃から人数が多くクラス替えがある環境であれば、友達のつくり方を学ぶこと

ができ、あまり気が合わない子がいてもうまく距離を置く選択肢も生まれるのではないかと思う。

参加者：私も小規模な学校で成長したため、今の話が実体験としても非常に分かる。私も同じクラスに同性の子が5人しかおらず、高学年になり同性間で遊ぶようになる中で人間関係の好みや関係性ができていた。ただし、人数が少ない分一人一人に目が行き届きやすいからか、先生から絶対に全員で仲良くするよう言われていたため、仲のよい子たちだけで遊ぶことができず、窮屈に感じていた。学校の規模が大きければそういう思いをしなくてもよいだろう、ということは自分自身の経験からも考えられる。

参加者：私も養基小学校出身で1学年に2クラスあったが、やはり中学校に行く時に揖斐川中学校と池田中学校に分かれることになっており、新しく友達をつくるということに苦労した。他の小学校の子どもたちはそのまま同じメンバーでそれぞれの中学校に入学するという一方で、少数派という形になることもあって人間関係の構築が難しかったが、その中でも小学校で一緒に6年間過ごしてきた友達がいることをありがたく感じていた。話を聞いていると、もしかすると在学中に養基小学校がそれぞれの町に分かれてしまうということが起きかねない状況ではないかと思われる。私の経験としても、小学校の6年間で醸成された交友関係が役立ったというところもあったので、できれば同じ小学校のまま6年間通って一緒に学習ができるとよい。

教育長：養基小学校は揖斐川町と池田町が共同で設置している組合立の学校であり、もしもそれぞれの町が学校統合をすることになって組合立を解消することになれば、子どもたちも二つの町の小学校に分かれることになる。養基小学校はこのまま残すということも一つの選択肢ではあるが、そうになると今の単学級編制の状態は継続することになるため、判断が難しいところである。皆様の意見を聞きながらどうしていくのかについて今後決めていくが、その際には2町で必ず話し合っ決めていくことになるため、その点をご安心いただけるとよい。

やまと・きたがたがた幼稚園には養基小学校に類似した状況があり、大和地区と北方地区の子どもが一つの園に通っている。

委員：教育長の言うとおりで、元々はやまと保育園ときたがた保育園という別々の園があったが、今は二つの地区の子どもたちが一つの園に通っている。そして、卒園後は大和小学校と北方小学校に分かれることになり、それぞれの小学校を卒業後は再び一緒に北和中学校に通うことになる。そのため、やまと・きたがた幼稚園で出された意見としては、小学校も一つにして、そのまま中学校まで通えるようにしてほしいという意見が多かった。

先ほども意見があったように、五つの園で意見交換会を行う中でも、やはり人間関係の観点からクラス替えができるほどの規模にしてほしいというような意見はどの園でも出されていた。

教育長：クラス替えができる規模ということで言えば、今の1クラスの最大人数は35人のため、去年生まれた子どもで考えると、48人なので全員同じ学校に通うとしても24人のクラスが二つという編制になる。去年生まれた子どもが小学校に入学するのは令和14年とそれほど遠い未来ではないため、小学校で言えばいつまでも6校ある状態を維持するのは難しいのではないかと、という意見が多く出されていた。アンケート調査も実施したが、今日出されている意見と同様に2クラス以上でクラス編制ができる規模にしてほしいという意見が多く挙げられていた。ただし、学校の統合にあたってはそのタイ

ミングや方法を慎重に考えてほしいという意見も多い。

A L Tとして、授業を行うにあたって学校の規模についてどう思うかお聞きしたい。

A L T : やはり、1クラス30人以上の大規模なクラスとなると、授業が進まないことがある。ただし、それはそれぞれの学級の特徴もあり、36人のクラスでも切り替えが上手でしっかり授業に取り組むところもあれば、30人弱のクラスでも授業に集中できていない子がいることもある。

英語の授業をするうえで、1クラス20人程度ならば一人一人の様子もみることができ、コミュニケーション活動も多くできるため、適当な規模だと感じている。それより人数が少なくなるとコミュニケーション活動が難しくなり、10人に満たない規模のクラスでは子どもたち同士の関係性もあってコミュニケーションの練習相手が減ってしまう。そのため、やはり1クラスあたり20人くらいの規模が適切だと考える。

教育長 : 清水小学校や北方小学校には複式学級があるが、その詳細について委員からお聞きしたい。

委 員 : 岐阜県では、二つの学年の合計人数が16人以上であればそれぞれの学年で1クラスずつ編制するが、15人以下であれば二つの学年を一つにまとめて1クラスとしなければいけないという決まりになっている。清水小学校では、今の3、4年生が合わせて15人のため複式学級となっており、その学級では1人の教員が両学年を担当している。どちらの授業もその教員が担当しなければいけないが、担当する人数が多いため、非常勤の方や教務主任、教頭が代わりに授業を行い、子どもたちの負担にならないよう同じクラスの中で学年ごとに分けて授業を行っている。

参加者 : 今、揖斐川町には小学校が6校あるが、すべての小学校を一つに統合する場合、新しい学校に6校すべての子が集中するというイメージでよいか。

教育長 : その理解で相違ない。

参加者 : そうであれば、仮に1学年100人だとすると、35人のクラスが3つできることになる。やはり先生1人あたりの人数は少ない方がよりきめ細かくみることができるが、1校に統合した場合、様々な子がいて人間関係を学ぶことができるのももちろんよいが、今よりも先生の目が行き届きにくくなってしまわないか。

ただし、配布資料の全国学力・学習状況調査の抜粋を見ると、国語や算数を好きだと思ふかという問の結果がおおよそ岐阜県の平均を下回っている。実際のデータと本人の感触には違いはあると思うし、得点の平均が出ていないためはっきりしたことは言えないが、このあたりはどうなっているのだろうかと感じている。

教育長 : 全国学力・学習状況調査については、揖斐川町の児童生徒は全国平均よりも高い結果を出しているため、学力という面では一定程度取組みの成果が出ていると思っている。ただし、勉強が好きではないという子が一定数おり、将来的にも学び続けてほしい、勉強が好きでいてほしいと思うため、もう少し勉強への愛好度を高めたいということを考えている。

併せて、教員の人数について挙げられていたため紹介すると、揖斐川町の教員の数としては国や県が配置している人が120人、揖斐川町が雇用している教員が80人いる。揖斐川町は市町村の中でも町費の教員を多く充てていると思うが、合わせて200人くらいで1,100人の児童生徒をみていることになる。仮に学校を統合して1校にした場合、どうしても国や県から配当される先生は減るため、町でその分を補っていきたいということを考えている。

さらに、もしも学校統合する場合の話ではあるが通学方法の問題もあり、その点についてはこれまでも「安全確保を最優先にしてほしい」という意見がたくさん出されている。また、揖斐川町では地域によって分団が編制できず集団登下校が難しくなっているため、送り迎えをされている保護者もあり、それならば学校を統合して多少遠方になるとしてもバス通学にしてほしいという意見もあった。今、一番遠い坂内の子どもは、北方小学校や北和中学校にバスで40～50分ほどかけて通学しており、また久瀬にはバスを乗り継がなければならない地域もある。そうしたことも踏まえ、登下校についてはあまり時間や負担をかけすぎないようにしなければいけないという課題がある。

皆様からいただいた意見を基に、これからの審議を進めていくことになる。この会に限らず、もし意見や要望があれば遠慮なく教育委員会に伝えていただきたい。

(3) お礼

- ・ 教育長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会